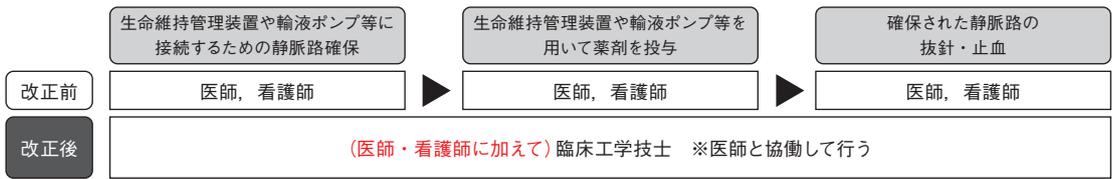


お詫びと訂正

『Clinical Engineering』2022年1月号 (Vol. 33, No. 1), 15ページ図1および16ページ図2におきまして、誤りがありました。読者の皆様に謹んでお詫び申し上げますとともに、以下のように訂正いたします。

15 ページ図 1

a) 静脈路の確保とそれに関連する業務



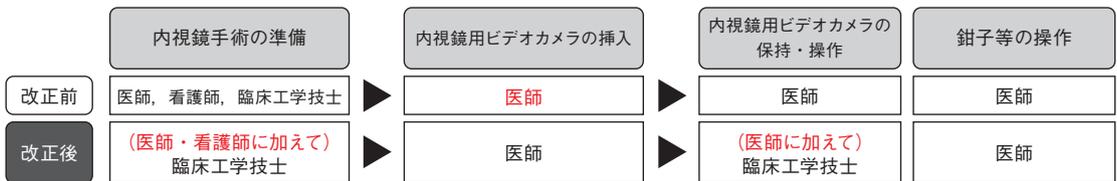
*手術室等で、臨床工学技士が医師・看護師に代わって静脈路を確保し、医師の具体的な指示の下、薬剤の投与や投与量の調節を行い、確保された静脈路を抜針できるようになることで、医師・看護師の負担軽減となる。

b) 心・血管カテーテル治療時の電氣的負荷の業務



*心・血管カテーテル治療の際、準備に引き続き、現行でも実施可能な清潔下での器械出しや、生命維持管理装置の操作とあわせて、医師の具体的な指示の下、電氣的負荷のスイッチの押下を実施可能とすることで、術者以外に必要とされた医師の役割を果たすことができ、当該医師が他の業務に当たることができる。

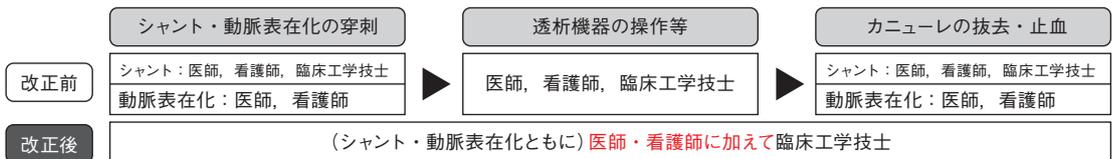
c) 内視鏡外科手術におけるスコープオペレータの業務



*鏡視下手術の際、医師が行っていた視野を確保するためのスコープの操作を臨床工学技士が代替することで、当該医師が他の業務に当たることができる。

16 ページ図 2

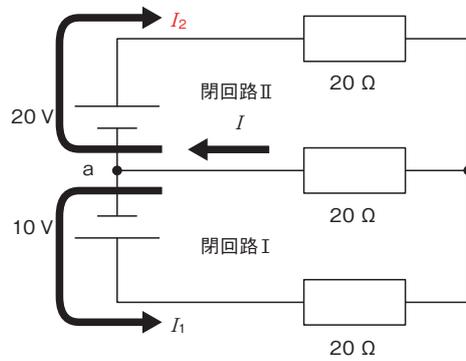
○血液浄化施行時の動脈表在化への穿刺の業務



*動脈表在化へ穿刺する場合も臨床工学技士が実施可能とすることで、医師・看護師は他の業務に当たることができる。

お詫びと訂正

『Clinical Engineering』2022年1月号 (Vol. 33, No. 1), 88ページ第14問の図におきまして、誤りがありました。読者の皆様に謹んでお詫び申し上げますとともに、以下のように訂正いたします。



2022年3月29日
学研メディカル秀潤社